

鉾屋町
町内会だより

11月13日
資源回収



今年最後の資源回収が、11月13日に行われました。今回は、ほぼいつもどおりの分量といった感じです。
そういえば回収業者がアリスさんにならってから、車両も3台から2台になっていることに今頃気が付きました。

不定期発行
発行者
鉾屋町町内会
編集/文責/撮影
桂 汎用工房
脇田 桂一郎
印刷
小松総合印刷
株式会社

以前はダンボール用、古紙用の回収車が1台づつ来ていたのですが、今は、まず回収車にダンボールを積み込み、



いつも量の少ない本類は、回収車の下部のラックに積み込みます。



古紙は、ダンボールを積み終わった回収車の後部に、積めるだけ積んでいき、



積みきれない分は、びん・缶を積んでいくトラックに載せる、といった方法になっているようです。



今回もアルミ缶の中に、スチール缶が混ざっているのが見つかりました。資源回収では、スチール缶は収集しておりませんので、皆様のご協力をお願いいたします。

以下のものは、盛岡市の資源ごみ、古紙の回収へお出しください。

- ・茶色と緑色以外の一升瓶
- ・四合瓶
- ・スチール缶
- ・ジュース、コーラ瓶
- ・ペットボトル
- ・ティッシュ箱等の厚紙

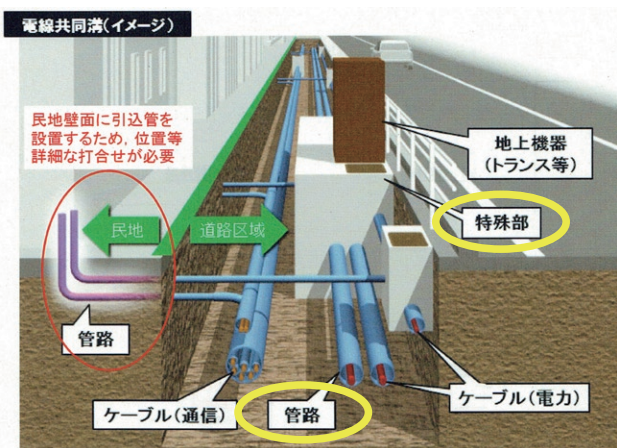
よろしく願いいたします。



無電柱化の工事が行われています

以前お伝えした、鉈屋町の無電柱化工事ですが、令和4年度の工事が10月17日より始まっています。

現在は石岡呉服店前あたりを掘削しているようですが、どのような工事を行っているのでしょうか？



イメージ図で「特殊部」となっているコンクリートの箱や、ケーブルを通す「管路」の埋設が主な作業になっているようです。具体的には、道路舗装を切断



コンクリート箱の部品を、その穴に設置して組み立て、



して、道路下に穴を掘り、



箱同士を結ぶ「管路」(右写真でオレンジ色の部分)を埋設して、埋め戻しています。この埋設工事は、令和5、6、7年度と、あと3年もかかるのだそうです。なんとも気の長い話ですが、長い目で観察していきたいと思っています。



鉈屋町周辺での受賞建築が、また増えて嬉しいです。



盛岡市都市景観賞に駒木葬祭社屋に、今年度の盛岡市都市景観賞に、寺の下の駒木葬祭社屋が選ばれました。

11月18日に行われた「第45回 盛岡市都市景観シンポジウム」に伺って撮影しました。

雲つなもりおか

ろくごう(ゆきい)

風景画展

雲つなもりおかの企画展として、イラストレーターのさいとうゆきこさんの風景画展が、大慈清水御休み処で開かれました。これは準備中の写真。



盛岡の日常風景を、繊細な線で画で描き込んだ作品は、不思議な魅力が溢れています。

今回は「雲を紡ぐ」に登場する場所や、鉾屋町周辺を中心に、20数点が展示されました。



「雲を紡ぐ」ブックカバーデザイン展

同じく雲つなの企画展として、昨年に引き続き、盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校の新井奈々さんによる、「雲を紡ぐ」ブックカバーデザイン展が、これも大慈清水御休み処で開かれました。

昨年、三岳亭で行われた際にも思ったのですが、ただ一つの物語に対して、皆さん実に様々な考え方や、表現を行うものだと感じしました。



単行本に続いて、文庫版も発行されたので、文庫サイズのカバーデザインもあります。



「雲を紡ぐ」は私も読みましたが、カバーひとつごとに元になった文章が蘇るようでした。デザイン教育としても興味深いと思います。

増田まちなみ保存会が鉾屋町へ

11月15日に、秋田県横手市増田町の「増田まちなみ保存会」の方々が、鉾屋町へ視察に訪れました。

増田町は、横手市増田伝統的建造物群保存地区があり、主屋と蔵をまとめて覆った「内蔵」





20名ほどの方々が2班に分かれ、大坊顧問と花田陽子さんの案内で鉾屋町を廻ります。



と呼ばれる建物が有名です。

その後、大慈清水御休み処で、盛岡まち並み塾の海野理事長から、鉾屋町の町並みと保存についてのお話がありました。続いて僭越ながら、私が盛岡町家の説明を行いました。

増田町の保存地区には、2度ほどお邪魔しましたが、繁栄した商家の建物が多く、豪華な蔵が印象的でした。

今回は時間がなく、増田町の方に、鉾屋町の感想をお聞きできなかつたのが残念です。

お詫びと訂正

前回の59号で、誤字がありました。

1ページ 4段目 2行目

誤「総」門

正「惣」門

「そうもん」といつたら「惣門」しかありえない、と思い込んでいたのか、何度も読み返したのに気づきませんでした。校正担当者も盛岡出身でないのです、分からなかつたようです。

お詫びして訂正いたします。

もう一つ訂正かと思つたら、いろいろ話が広がった話

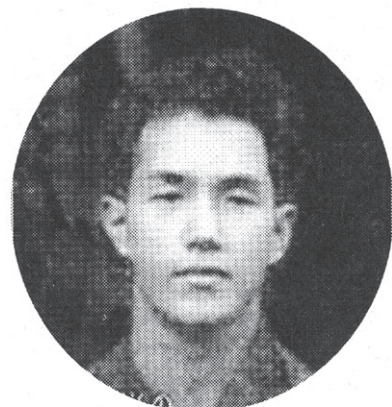
少し前になりますが、55号の「長板つてなんだ？」を掲載した後、鉾屋町の島村様から「あの板を持っていた染物屋は「雫石町」ではなくて「下ノ橋町」ですよ」とのご指摘がありました。どうやら下ノ橋町を聞き違えて、伝言ゲームのように、雫石町となつていたようです。

その染物屋は「喜多染物工場」というところだそうです。そんな近くなら、ちよつと見に行こうかと調べてみたら、下ノ橋町じゃないようです。馬場町でした。それ以外にも、喜多染物工場にまつわるお話を聞くことができました。

鶴彬つるあき（本名喜多かつじ）は反戦川柳作家として作品を残しましたが、治安維持法で逮捕、留置場での赤痢によって、29歳の生涯を終えました。

そして盛岡にいた兄によって、遺骨は本町通の光照寺に埋葬されています。この兄がいたのが

喜多染物工場だったそうです。



鶴彬

喜多染物工場のあつた場所を訪れてみましたが、工場は解体されて住宅地になっていました。

という訳で、

町内会だより55号で、訂正があります。

4ページ 2段目 7行目

誤「雫石町」

正「馬場町」

となります。

お詫びして訂正いたします。

編集後記

まだ雪は降っていませんが、寒さが近づいてくるのを感じます。

鉾屋町で3度目の冬を迎えることとなります。来年も良い年になりますように。（桂）